

ひょうぐ 表具

文化財を守る再生の技



すぎやま
杉山

まさづみ
正純

小学5年生の頃から、表具師であった父の手伝いをしていました。高校を卒業後、3年間かけて東京の表具店3店で修行をして見聞を広め、平成5年に二代目として一步堂表装店を継ぐ。



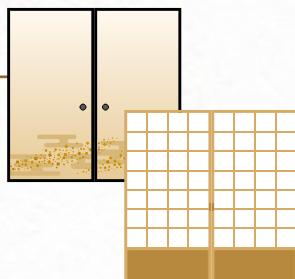
表具とは

紙や布を使って作られた掛け軸や屏風、巻物、ふすまなどのことです。表具の歴史は古く、仏教とともに中国から伝わったとされ、鎌倉、室町と時代を経るにつれて、日本独自の技術が加わり、発展してきました。



表具師の仕事

表具の修復をしたり仕立て直しをしたりする仕事です。古くから伝わる文化財や美術品の修理・修復や、寺院などの天井や壁の表装、また日常生活に密着したふすまや障子などの修理・修復も手がけます。



表具師の修復技術

表具師は、長い年月をかけて劣化してしまった文化財の修復も行います。作られた年代が古ければ、そこからにじみ出る古さまで再現するため文化財の修復では、作業に1年以上かかることがあります。

杉山さんが修復を手がけた文化財のひとつである光明院の「刺繡涅槃図」は、総刺繡で仕上げられたもので、美術的にも非常に価値の高いものです。



▲ 名古屋市指定文化財
「刺繡涅槃図」光明院(名古屋市中村区)

表具の修復過程（一例：しわや汚れのある書の場合）

- ①水を吹き、紙のしわを伸ばす。
- ②新しい和紙を裏から貼り合わせ、それを板に張って2~3日乾かす。
- ③特殊な薬品を使って汚れを取り、再び乾燥させて完成。



▼ 修復前



▼ 修復後



しわや汚れがとれてキレイな書に！

職人さんに聞きました！



仕立て直すときに大変なことや、得意にしていることはありますか？



掛け軸だと、裂地(掛け軸を仕立てる際に使用する織物)の色合わせが大変です。作品のテーマに合わせて、膨大な種類の中から選んでいきます。どの組み合わせがいいのか迷い、裂地(掛け軸)を選ぶだけで1日以上かかることも珍しくありません。



得意にしているのは、絵画です。元々絵を描くのが好きで、イタリアで個展を開いたこともあります。絵画の技術を生かしてオリジナルの掛け軸も作っています。



表具師のお仕事のやりがいはなんですか？



ボロボロになって自分の元にやってきたものをきれいに再生して、お客様に喜んでもらえると励みになります。

どんな仕事が来ても面白いですし、基本的にどんな依頼も断りません。難しい仕事であればあるほど挑戦する意欲が湧いてきます。例えば、昔の有名な方が手がけた書や絵画などの修復の依頼が来るとやりがいを感じます。

他の人が受けてこなかったような難しい仕事も受けてきた自負があると語る杉山さん。長年の経験から培われたその技術と感覚で、表具に新しい命を吹き込んでいます。





杉山さんが手がけた作品



国指定重要文化財

天草四郎陣中旗(レプリカ)

提供:天草市立天草キリスト教館

しまばら あまくさ
島原・天草一揆(1637年)において、天草四郎が使用したと伝えられる陣中旗のレプリカです。杉山さんが実物をもとに忠実に再現しました。

てんじょうが

天井画

しょうおんじ
松音寺(名古屋市北区)

杉山さんがデザインから制作までを一から担当しています。表具だけでなく、絵画も手がける杉山さんならではの作品です。



ふなじょうや しょうぞく

船庄屋装束(レプリカ)

一宮市尾西歴史民俗資料館所蔵

江戸時代に木曽川の渡船を管理していた船庄屋が着ていた装束のレプリカです。杉山さんが実物をもとに忠実に再現しました。

